

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2103 号

Clinical Use of Expanded Prostate Cancer Index Composite-based health-related quality of life outcomes after Robot-Assisted Radical Prostatectomy for prostate cancer

(前立腺癌に対して Expanded Prostate Cancer Index Composite を用いたロボット支援根治的前立腺摘除後の健康関連 QoL 評価)

福田 和泰 (ふくだ かずひろ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、Expanded Prostate Cancer Index Composite (EPIC)を用いロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術 (RARP) を受けた本院の患者 573 人を対象に、RARP 前後の健康関連 QoL (HRQoL)を検討した。

本邦にて前立腺癌は男性の癌罹患率は第 4 位。今後も高齢化の進行が予想されることから前立腺癌患者数はさらに増加することが予想される。それに伴い術後の回復が早く、術中の出血量が少ない RARP の手術件数も右肩上がりに上昇すると考えられる。

泌尿器科医は癌を根治することと同じように、患者の QoL 維持に最善を尽くすことは極めて重要であると考えられる。QoL 維持には周術期管理の重要性を認識しなくてはならない。しかしながら、日本人患者において RARP 前後の HRQoL を比較した報告は 2 報しかなく、術後観察期間は全て 2 年以内と短期間の観察しかできていない。本研究では RARP 前後の HRQoL を比較した 3 例目を報告し、RARP 後 3 年間とこれまでの報告より長期間の臨床データを解析した。RARP 前後の各サブドメインの経時的変化の推移、回復群の割合、Kaplan-Meier 曲線を用いた各サブドメインの回復時期の揭示などを行った。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。